

# 平成29年度 学校評価 報告書

学校法人伝香寺学園いさがわ幼稚園

## 学校自己評価

### 園の目標

仏教環境のもと人格形成の基礎を培い、自ら感じ、自ら考え、自ら行動することのできる子供を育てる。

### I、教育の目標

- 正しい生活習慣を身に着けている子
- 人や生き物を愛することのできるあたたかい心の子
- 知恵、心、体がバランスよく発達している子をめざす。

### II、本年の重点目標

- ・①教育活動の充実
- ・②教員の資質の向上
- ・③保護者との連携
- ・④安全への取り組み

### III、評価項目と取り組み状況

評価項目	取り組み内容		取り組み状況
① 教育活動の充実	日本の文化に親しむ	A	茶道や習字の専門家を招き、子どもたちにわかるように、お話をしてもらったり、実際に体験して、その面白さを感じたり興味を持ったりした。  和太鼓の北西光城先生の指導を受け、太鼓の置き方、打ち方の見直しを行った。子どもたちは慣れるにしたがって、体全体で太鼓をたたけるようになる子が増えていった。
	生活の中の年中行事を、丁寧に行い家庭にも関心を持ってもらう（柏餅・つきみだんご・七草粥・かきとり）	A	一年の行事計画の中に、年中行事を計画的に取り入れ、四季の移り変わりとともに行事の意味を理解しながら、子どもなりのかかわりを持った。行事にまつわる食べ物を食べたり、持ち帰ったりすることで家庭にも興味を持ってもらえるようにした。
	身近な自然に興味や関心を持つよう働きかける。	B	ザリガニやめだかを育てて餌をやったり、保育者がケースの掃除をするのを見たり、野菜や草花を育てて、収穫したものを、調理して食べたりした。柿とりをして、家庭で干し柿を作ってもらったり、春の七草を観察したり、保護者の協力も得ながら子どもたちの経験を深めることができた。
	同じ年齢のお友だちばかりでなく、異年齢で交流することで、他の学年に興味を持ち、年長児への憧れ、年少児への思いやる気持ちなどが育つようにする。	B	保育者が計画する交流の時間を、スマイルタイムと名付け、子どもたち自身が楽しみにできるように、交流するという事を意識できるようにした。少しずつ顔なじみも出来、互いに関心を持ってはいるが、自発的な遊びは、同学年の子供たちの関わりが多い

項目	取り組み内容		取り組み状況
② 職員の資質の向上（特別支援の理解など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園外で行われる、特別支援研修への積極的参加</li> <li>・和太鼓、民謡の専門家からの指導</li> <li>・参加できない教員への園内研修</li> <li>・新教育要領理解の推進のための研修受講</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援に関する園外の研修に、積極的に参加した。支援の必要な子の問題を皆で共有し、個別の指導計画をたて、関係機関との連携を図った</li> <li>・研修に参加できなかった教員に対しては、参加者が、内容の説明にあたった。</li> </ul>
③ 保護者との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親子おはなし会の開催</li> <li>・保護者の保育参加（年少）</li> <li>・親子口衛生指導受講</li> <li>・年3回の個人懇談会</li> <li>・げんきならっこ約束運動への取り組み</li> <li>・干し柿づくり、七草粥への協力</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園児とともに、保育活動に参加しながら園児の様子を観察してもらったり、講演を聞くことで、園でしていることに興味関心を持ってもらい、こどもと話題を共有できるようにした。</li> </ul>
④ 安全への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月の避難訓練</li> <li>・降園時の自家用車乗り入れについての安全確認</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>一年を通した計画に基づき、いろいろな場合を想定した訓練をおこなった。</li> <li>保護者からアンケートを取り、ヒヤリハットの事例を聞きだし、全員で事例を共有し安全に務める意識を高めた。</li> </ul>

【評価の基準】

A	十分達成されている	B	達成されている	C	取り組まれているが成果が十分でない	D	取り組みが不十分
---	-----------	---	---------	---	-------------------	---	----------

総合的な自己評価結果：B

教員の反省より

教育活動の充実	（体力づくり）縄跳びや鉄棒など、こどもたちが目標を決めて達成していけるよう、専門家の指導を受けつつ進めていきたい。各学年で、体操やヨガをしたり、目標を持って、工夫しながら活動を進めることができ、子どもたちも達成感を味わうことができた。
	（異年齢の交流）年長、年少の交流に比べて年中の他学年とのかかわりが少なかったという反省を踏まえ、指導計画の変更の必要がある。小さい子への思いやりや、年長児への憧れなど、よく育ったように見える。
	（身近な自然に親しむ）教師自身が、季節の移り変わりや身近な自然に親しみをもち、子どもたちにどのように伝えていくかを工夫していく必要がある。また、子どもの活動はクラス便りで知らせるようにしたが、理解していただけていない保護者もあったので伝え方に工夫が必要である。子どもたちは自分が育てた植物に愛着を感じ、成長を楽しみにしながら観察することができた。目の前で育った野菜を食べることも楽しめた。
	（年中行事の理解、日本文化に触れる）学年によって活動の違いはあるが、絵本や体験による行事の理解が進んだ。特に年長児は、お習字やお茶など機会が多かった。
職員の資質の向上（保健、健康、特別支援の理解）	特別支援の研修に参加することで、実践できたことも多く、今後も引き続き学んでいきたい。感染症に対する知識に自信のない教員もあるので、さらに、研修を重ねる必要がある。

#### IV反省と今後取り組むべき課題

職員間における連絡は日々の反省会の中で うまく伝え合い、他のクラスの活動などもよく理解することができている。遠足や運動会など、大きな行事については反省会の時間を特別にとって行うので大変詳しい検証ができるが、日々の個々の子供の様子についてはすべてを共有し合うというところまではいかない。気になる園児の様子などあれば、自分から報告し、他のクラスの先生たちにも観察してもらうことも必要である。定期的に、時間を設定することで全員が情報を共有できるように、検討中である。

年長児になると、縄跳びや、鉄棒など目標を持って子ども自ら取り組む姿も見られるが、外遊びでは、活発に動く子と、動きの少ない子に分かれる傾向もある。できれば、どの子ども、体全体を使った遊びを一日一度は経験してほしい。

子どもたちは、何でもやってみたくて仕方がない様子である。昔の子供に比べると家でのお手伝いも限られているし、忙しい母親にとっては、幼い子供のお手伝いが返ってじゃまになったりすることもあるだろう。お手伝いには、手先を使ったり、体を使ったりする事も多く、子どもが自分ですることの楽しさや、達成感、自己肯定感をもつことも期待できる。園の中で、子どもが自分たちの園生活をできるだけ自分たちの力で作り上げていけるよう、環境を整えていくことを来年度の一つの課題としたい。